



阪口 豊 編

日本の自然

岩波書店, 1980, B 5 版, 269 頁,
3,200 円

本書は日本の自然に関する21篇の論文を系統的に並べて収録したものであり、その構成は次のとおりである。

- 第 I 部** 日本の気候・植生・土壌 1. 日本の気候, 2. 日本の豪雨・豪雪, 3. 日本の雪渓, 4. 日本の植生, 5. 日本の土壌—その生成学的側面, 6. 日本の土壌,
第 II 部 日本の地質現象—構造・地震・火山・温泉, 7. 日本列島の構造と地震・火山, 8. 日本の活断層と地震, 9. 縮みゆく日本列島, 10. 日本の温泉, **第 III 部** 日本の陸上と海底の地形, 11. 日本の地形, 12. 日本の海成段丘, 13. 日本のサンゴ礁, 14-I. 日本周辺大陸縁辺部の海底, 14-II. 日本周辺大陸縁辺部の海底, **第 IV 部** 日本の自然史, 15. 広域に分布する火山灰, 16. 大阪湾の自然史, 17. 深海堆積物と日本海の歴史, 18. 日本近海海底の第四紀堆積物, **第 V 部** 日本の川・湖・海, 19. 日本の川, 20. 日本の湖, 21. 日本をめぐる海とその生物。

気象学関係の論文の筆者は、「日本の気候」は駒林誠・中村和郎の両氏であり、「日本の豪雨・豪雪」は武田喬男・二宮洸三の両氏である。また「日本の雪渓」は樋口敬二氏が書いている。

本書に収録された論文は、雑誌「科学」の特集：日本の自然（1976年4月号）を中心に1975～80年にわたって同誌に掲載されているから、当時、これらの論文を個々に読まれた会員も多いと思われる。雑誌「科学」が、日本の自然をテーマに特集を行った時、執筆者たちは何回も研究会をかさね、専門を越えて、互に日本の自然を理解することに努めた、という。このことは、各分野における重要問題を抽出することと、それについて現在まで分かっている事柄の本質を簡明に説明することを可能にしている。読者は「日本の気候」「日本の豪雨・豪雪」「日本の雪渓」などについて、「ああ、こういう問題のとらえ方があったのか」と思わずハッと、その説明を読んで、「なるほど」とうなずく、いくつかの個所に遭遇するにちがいない。「日本の気候」の中に「日本上空のダストと氷晶核」があり、また「日本の豪雨」の問題点として、日本の雨量の記録が1時間～1日の時間帯で世界記録に近いが、より短時間、より長時間の雨量については世界記録をかなり下まわる点があげられ、その理由が説明されている。雪渓、植生、土壌、地質現象、地形、自然史、川、湖、海などについても、専門外の研究者が、事柄の本質を十分に理解できるように記されているので、日本の自然像を全体として把握するのに絶好の本といえる。気象衛星からの写真をふくめて、掲載されている各種の写真は、人類が地球の表面を、このように広くかつ詳細に俯瞰（ふかん）できるようになったことを、改めて知らせてくれる。

(倉嶋 厚)